

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4272200207		
法人名	社会福祉法人 たけのこ会		
事業所名	グループホーム鶴亀	ユニット名	1
所在地	長崎県五島市浜町73番地3		
自己評価作成日	2023年12月28日	評価結果市町村受理日	2024年 3月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijevosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年 1月 22日	評価確定日	2024年 2月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>1. 利用者の健康状態を常に把握し、主治医、家族との連携を密にし、早期受診に努めている。 1. 日常生活の中で常に笑顔で笑いのある介護・支援に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>「グループホーム鶴亀」は保育園跡地を活用し、2005年に開設している。2023年度のスローガンは「1. できることを見つけよう、続けよう！ 2. 一人ひとりの笑顔を大切に！」であり、「裁縫」「野菜の収穫」「部屋の整理整頓」「廊下の歩行訓練」「リハビリ」等を行い、健康維持に努めている。ご利用者の希望する食べ物等を教えていただき、季節に考慮したメニューを考えており、3食手作りである。ご利用者と収穫したプロッコリーやカブ、大根等を料理に使い、郷土料理（五島うどん、五島山菜の煮しめ、魚のすり身、切り干し大根等）も好評である。皆さん食欲旺盛で、元気に過ごされている。管理者が看護師であり、職員と共に日々の体調管理を行い、早期対応に繋げており、入院した際は職員が定期的に訪問し、状態の把握や洗濯物の交換支援、家族との連絡など、早期退院に向けた支援を行っている。ご利用者の方々が笑いの絶えない生活ができるよう努めてこられたが、今後も法人全体でホームの良い点、頑張っている点と課題（原因）を分析し、1つ1つの改善策を前向きに検討する中で更なる働きやすいホーム（より良いチームワーク）にしていくとともに、ご利用者の笑顔を増やしていく予定である。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>日々の業務、スタッフ会議等を通じて、利用者の立場にたった介護の実践、職員同士の慣れによる不適切な対応等がないよう努めている。</p>	<p>法人理念以外に、“1. 常に家族同様にやさしさと思いやりを！ 2. 常に利用者の目線でさりげない気配り、目配りを！”と言う介護理念が作られており、毎年のスローガンも決めている。2023年度（令和5年度）のスローガンは「1. できることを見つけよう、続けよう！ 2. 一人ひとりの笑顔を大切に！であり、スタッフ会議、日々の介護の中で情報交換を続けている。</p>	<p>「自分がされて嫌なことはしない」等の研修を続けているが、今後も更に理念「1. 常に家族同様にやさしさと思いやりを！ 2. 常に利用者の目線でさりげない気配り、目配りを！」の実践に繋げるために全職員への周知・指導を行い、更なる改善を図っていく予定である。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>新型コロナウイルス感染症予防のため、地域との交流は自粛したが、事務長がイベント等に参加し、写真、写真データを提供している。</p>	<p>2023年度は大浜小の児童がホームで歌や演奏、お手玉を披露してくださり、黒蔵民生委員の訪問もあった。市役所職員や警察派出所、消防分団、地域老人クラブ等と連携し、ご利用者の安全な生活を支援している。事務長（職員）が小学校の入学式や運動会、中学校の運動会、大スポーツイベント大会で写真を撮影し、関係者にお渡ししている。コロナ以前は八潮相撲、敬老会、地域のホームとの合同行事等に参加し、家族交流会（敬老会）の時に大浜婦人会の方々が踊り（銭太鼓）等を披露して下さっていた。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>ホームへの来訪者があれば、認知症に関する相談、パンフレット等を配布している。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度はコロナ感染症のクラスター等の関係から開催できていない。6年1月～3月に1回～2回実施し、令和6年度は、6回開催し、介護サービスの向上に活用したい。</p>	<p>2022年度は書面開催を4回できたが、2023年度は開催できておらず、2月・3月に行う予定である。書面開催時は返信用紙を同封し、委員からの意見を頂き、対面開催時でもご利用者の体調やケア内容、リハビリ状況、ホーム運営等を報告していた。</p>	<p>2024年度の運営推進会議に家族や地域（地区公民館の方等）、五島市職員の参加をお願いし、ご利用者のケア状況と課題、評価への取り組み状況等を話し合い、委員の方の意見をサービス向上に活かしていく予定である。</p>

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務長、浦理事が定期的に長寿介護課へ出向き、利用者の状況、介護事業の同行等について意見交換を行っている。	事務長等が市を訪問し、ご利用者の状況や介護事業全般の報告と共に、感染対策等を相談し、アドバイスを頂いている。福祉課や社協と情報交換し、地域包括からも入居相談等を受けると共に、空き情報を月末に市に持参（FAX）している。2023年8月のクラスター発生時も五島市と連携し、勤務体制等のアドバイスもあり、乗り越えることができた。今後も更なる適切なケアに向けて継続的な指導を受けていく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会等において、身体拘束の弊害、身体拘束をしない等の事例等を研修し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、感染症、虐待の委員会を3カ月に1回行い、身体拘束に関連する動画での学習を受けている。家族にも「身体拘束をしない事」と「リスク」を説明し、ご理解頂いている。	ご利用者の喜怒哀楽に向き合い、原因を追究し、最適な対応策の検討を続けているが、職員の言動等で不適切ケアの検証が必要な事案が発生している。今後も継続して日々のケアを振り返り、改善に向けた取組みに繋げる予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、事務長が研修会へ参加し、虐待とは何か、言葉による虐待についても説明し、定期的な虐待防止委員会において、事例検討等を行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事務長が研修会に参加し、スタッフ会議において制度の概要等を説明し、職員が理解できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書の内容を十分説明し、特に入院時の部屋の確保時間等利用者、家族が安心できるような運営を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との電話又は訪問時に意見・要望等を聞いている。また、毎月、請求書等の送付時に受診予定、イベント及びご家族の意見・要望等を聞き取る用紙を送付している。	毎月、日頃の様子と行事予定、受診結果、請求書と共に、事務長が撮影した写真を添えて家族に郵送したり、LINEやショートメールで動画や写真を送っている。家族の希望・要望等を聞き取る用紙を同封し、家族の面会時やメール、電話等で要望を伺っている。コロナ以前は秋の敬老会の際に「家族交流会」が行われていた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中やスタッフ会議において職員の意見・要望等を聞き取り、施設運営の参考にしている。	会議等で情報交換し、事務長・管理者から周知事項を報告している。職員の希望（人員増、勤務希望等）を聞き取り、職員の体調や家族状況に応じたシフトの希望を伺い、「眠りスキャン」の導入も検討している。	①今後も人員体制等の更なる改善を行うと共に、オンライン研修等を積極的に受講していく予定である。 ②更なるチームワークに繋げるため、日々頑張っている職員同士の意見交換を深めていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算等についても給与規則を改定し、加算の内容を全職員に周知し実施している。また、年次有給休暇の改正についても周知し、計画的な取得を周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキル、資格等に応じた受講、上位資格取得の啓蒙、休暇の付与等の支援を行っている。今後、オンライン研修等を積極的に計画・受講していく予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人役員が必要に応じて同業者との意見交換を行っており、内容に応じて職員へ周知している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に対する対応方法、個々の意見・悩み等を気軽に話せる環境であり、日々業務の中で変化等を受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族への電話・手紙・訪問時に意見・要望等を聞き取り、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族から相談を受けた場合は、管理者を中心にスタッフ会議等で検討し、ホームのできる支援・サービス内容等をよく説明し、家族が安心できるよう努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員個々が利用者各人の状態に応じた対応・会話等に努め、常に笑いの絶えない生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が入居者の話をよく聞き、利用者の要望・認知症の状態に応じた対応・会話を行い、一緒に生活している環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所等への外出希望はないが、通院時に買い物をする等の支援を行っていき考えている。	生活歴の把握を大切にしており、ケアマネからの情報提供書も参考にしている。1人暮らしの方で入居時に情報不足の方は、日々の生活の中で生活歴を教えて頂いている。ご利用者に手紙や贈り物が届いた際は、ご本人の写真を送付して近況報告している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々、認知症の程度の差による利用者間の混乱等はあるが、職員が利用者相互に応じた対応、会話に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退去された利用者についても職員がお見舞い、家族の相談等にも気軽に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の生活状況を十分把握しており、本人の要望等を聞き取り、必要に応じて家族と相談し、利用者中心のケアに努めている。	2023年度のスローガンが「1. できることを見つけよう、続けよう！ 2. 一人ひとりの笑顔を大切に！」であり、「裁縫」「野菜の収穫」「部屋の整理整頓」「廊下の歩行訓練」「リハビリ」等も行い、健康維持に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者の生活状況、家族構成、希望するサービス等を十分聞き取り、利用者・家族が満足するような介護サービスに反映するよう努めている。		

自己	外部		自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者各人の日常生活の様子、健康状態、趣味、好み等へ現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議、又は日常生活の中で利用者各人の新たな情報等を意見交換し、必要に応じて介護計画の見直し等に反映している。	ご利用者の日々の体調や生活状況、趣味、好み等を把握している。 ご本人のADL、生活習慣もICFの視点でアセスメントし、ケア等も具体的に計画に記載している。 「先々は歩けるようになりたい」「自由に移動したい」「トイレに自分で行きたい」などの要望を聞き取り、計画に反映している。 日課表には「ご本人ができること」を詳細に盛り込み、計画内容の実施記録も残している。職員の寄り添いもあり、入居後、穏やかにられる方が多い。		①今後もIADL（下ごしらえ・掃除）のアセスメントを増やし、テーブルでできる料理の下ごしらえや「キビナをおびく」作業等の役割を増やしていく予定である。 ②今後も更に「症状」「嚥下」「意思決定」「できそうな事」「介助理由」等をアセスメントに増やし、ご本人の「目標」作りに繋げる予定である。 ③今後も季節感を味わう事や気分転換ができるように、ご利用者の希望も大切にしながら外出の機会を作っていきたいと考えている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の「個別介護記録」等により、見直しが必要な部分をまとめ、モニタリング表に反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長期入院になった場合、家族、主治医とよく相談し、可能な限り居室を確保するなど、馴染みの関係を大切に支援を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向等を尊重し、市役所職員の訪問、警察派出所、消防分団、地域老人クラブ等と連携し、利用者の安全な生活を支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診にあたっては、利用者、家族の要望等を主治医に伝え、適切な受診ができるよう支援している。	職員の観察力も高く、昼間に早期対応できている。体調変化時は管理者（看護師）に24時間相談でき、ホームに駆け付ける時もある。看護師や職員が受診介助を行い、受診結果は面会時や通信等で報告している。体調変化に応じて家族も同席し、治療方針を共有している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当が看護師であり、全職員が利用者の健康状態をよく把握し、受診時に詳細に説明し、次回受診計画に反映されるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、職員が定期的に訪問し、状態の把握、洗濯物の交換支援及び家族との連携等、早期退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は、家族・主治医と十分相談し、利用者がより良い終末期を迎えることができるよう特養等他施設の利用も含めた相談・支援を行い、利用者・家族が不安にならないよう支援している。	入居時に「看取り支援は行っていない」事を説明し、日々の生活リハビリを行い、重度化予防に努めている。「最期は病院（特養）で」と希望される方が多く、特養等の入所手続き支援も行われている。重度化された際は、主治医の指示で訪問看護を利用された方もおられ、転院ぎりぎりまで誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、緊急時のマニュアル等により速やかに対応できる体制である。また、火災発生時、災害発生時の避難誘導訓練も定期的に実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災発生時には、地域の消防分団及び近隣のGH大浜、GH夕波職員の応援体制を確率している。また、日頃からホーム周辺の見守りを行い、火災予防に努めている。	自然災害等のマニュアルを作成し、職員と共有している。年2回、消防署・消防設備点検業者と夜間想定訓練をしている。地域の2箇所のホームと連携し、コロナ禍は電話通報訓練をしている。消防団は3年に1回来て下さり、2024年度はコロナ以前と同様に他のホームの訓練に参加する予定である。災害に備えて3～4日分の水や食料を準備しており、2022年7月にBCP（事業継続計画）を作成し、職員と共有している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する「人格・尊厳の尊重」を重点的に指導し、特に「易しい声掛け、応対」について繰り返し指導している。また、月に1週間、応対等についての自己チェックを行い、応対向上に努めている。	日々のケアを振り返り、事務長からの声かけも行われている。ご利用者の対応が困難な場合は職員同士で協力し、ケアが変わることもある。入室時は声かけし、ノックしている。今後も職員の言動の背景を分析し、更なる適切なケアに繋げていく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望・要望等を十分聞き取り、可能な限りの支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人が希望することを優先し、一人ひとりの状況をよく把握し、利用者のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中で髪、洋服の乱れ等、職員がさりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事ができるよう、職員も同じテーブルで食べており、介助が必要な利用者の食べこぼし等を支援している。	ご利用者が希望する食べ物等を聞き取り、季節を考慮したメニューを考え、3食手作りで提供している。嚥下状態は看護師に相談し、必要時はキザミにしている。ご利用者と収穫したブロッコリーやカブ、大根等も料理に使っている。五島の郷土料理（五島うどん、五島山菜の煮しめ、魚のすり身、切り干し大根等）も好評で、皆さん食欲旺盛で、元気に過ごされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者毎に食事量、水分量を把握しており、良好な健康状態が維持できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じた口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎に「排泄チェック表」により十分把握し、安心して排泄できるよう支援している。	有する能力に応じた排泄ケアが行われている。車椅子の方を含めて下着を着用し、排泄が自立している方も多い。車いすを自走してトイレに行かれる方は、必要時に紙パンツの汚染確認をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	「排泄チェック表」により、バイタル測定時に排泄の有無を聞き取り、又は職員が確認し、一三日を目安に下剤等の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望、健康状態をよく把握し、気持ちよく入浴できるよう支援している。	お風呂好きな方が多く、ご本人の同意も得て女性利用者は2人ずつ入浴されている。入浴時にご利用者との会話を楽しまれ、シャワー浴や足浴（寒い時期）も行っている。浴槽は広く、浴槽内に階段もあり、手すりにつかまりながら湯舟に浸かっている。洗髪を含め、できる部分は自分で洗われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活パターンを大切にしながら、ゆったりした共同生活ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎の健康状態をよく把握し、適正な服薬管理、服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各人の趣味、楽しみ等をよく把握し、その人の能力がひきだされるような会話・応対に努めている。		

自己	外部		外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和5年8月、利用者全員、職員の大半が新型コロナウイルス感染症になり、ほとんど外出支援ができていない。病院受診時には買い物等の支援を行っている。	受診時（採血）にドライブや桜の花見、病院の売店で買い物を楽しまれたり、ホームの敷地内を散歩できた方もおられ、今後も人員体制を整えて散歩の機会を増やす予定である。コロナ以前は小学校の桜の花見や地域行事(学校の学習発表会、八朔相撲、運動会等)、外食（五島うどん等）や鬼岳見学、食材の買い出し、系列施設の「おくうら元氣村」に歌謡ショー見学等にお連れしていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族とよく相談し、利用者の能力に応じて現金を渡し、使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームでの様子、イベント等の写真を送付したり、手紙・贈り物等を頂いた時は、電話連絡する等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が常に快適に生活できるよう清潔を保ち、食堂・廊下等に季節感を感じる飾り付け等をしている。	畑があり、収穫を楽しんでいる。リビングは明るく、台所も隣接している。壁には思い出の写真やイベントの写真（誕生日会）、季節の飾りつけ（木（桜・柿など等の折り紙）を行い、ご利用者と会話が弾んでいる。リビングのテーブルも大きく、ゴミ箱作りや塗り絵、体操等も行い、リビングの畳で洗濯物を畳まれている。リハビリの機器もあり、ご利用者がリハビリをされている。換気も心がけ、掃除も徹底し、温湿度管理もっており、空気清浄機も活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で一緒に過ごしたり、一人の時間が持てたり、自由に生活できるよう支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に居室への持ち込み制限はないが、利用者の馴染みの物を持ち込み、自宅と同様な生活ができるよう支援している。また、居室への家族の宿泊も可能である。	各居室は広く、家族の写真を飾られたり、家具、電気製品（ストーブ等を除く）、テレビ、タンス、布団（枕）等を持ち込まれている。ご本人が部屋の整理整頓する方もおられ、担当職員が衣替えや整理整頓等を行い、居室の掃除も綺麗にされている。各居室に電話回線があり、以前は自宅の電話を持参し、使用される方もおられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゆったりした居室、廊下等、利用者の能力に応じた支援を行っている。		